



BELOW WATER

OLIVER LUCANUS — Photo & Text

オリバー・ルカヌスが贈る水中世界 Vol.12

マングローブの水中世界

メキシコのユカタン半島、カリブ海からすぐ近くにあるこの場所は、開けた水域にレッドマングローブの根が密集して広がっている。セノーテと呼ばれるこれらの地下河川は、多孔質の石灰岩を通じて海とつながっている。そのため汽水域の生き物たちの棲家となっているが、ポエキリア・サルバトリスやマヤヘロス・ウロフタルムスなどの淡水魚たちもこの環境を共有している。

【撮影地】
メキシコ ユカタン半島

【生物】
Poecilia salvatoris *Mayaheros urophthalmus*

OLIVER LUCANUS

オリバー・ルカヌス (54)

ドイツ、バイエルン州生まれ。30年以上に渡り、世界中で魚の棲息環境を撮影し続けている。『Xingu Below Water』など写真集を発刊。カナダ、モントリオール在住。IEPA会員。

CREATOR WORKS

Daichi Araki
NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)



©AQUA DESIGN AMANO

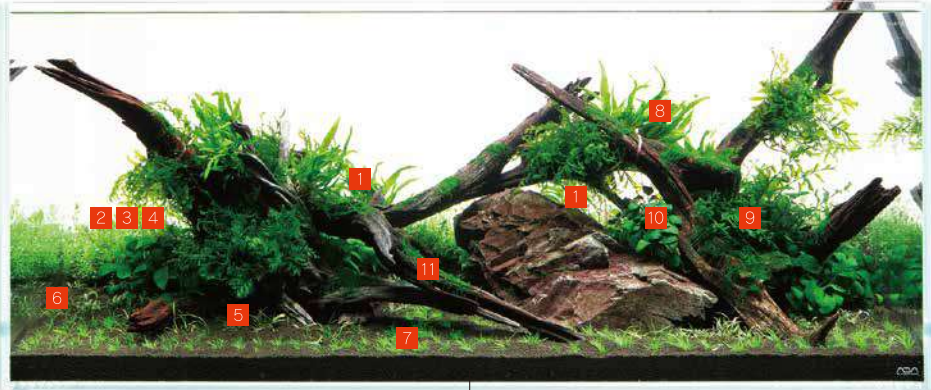
〔群生と要石〕レイアウトの重心に据えた一石が、この水景の要となり力強さと安定感を与えている。レイアウト構成は、典型的なネイチャーアクアリウムであり、その着想は南アフリカ・ドラケンスバーグ山脈でのフィールドトリップで出会った川の巨石からきている。水草と魚それぞれの個性が楽しめる水景となった。



CREATOR WORKS

Daichi Araki
NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)

植栽



2024年9月12日撮影

完成



2025年2月5日撮影

TITLE 群生と要石

D A T A

制作日 2024年9月12日
撮影日 2025年2月5日
制作 荒木 大地 (ADA SUIKEI CREATOR)
水槽 キューブガーデン W1,200×D500×H500 (mm)
照明 ソーラーRGBⅡ ×2 (1日8時間30分点灯)
ろ過 スーパージェットフィルター ES-1200 (バイオリオG)
素材 ホーンウッド、万天石
底床 アクアソイル・アマゾン Ver.2、
アクアソイル・アマゾン Ver.2 パウダータイプ
パワーサンド・アドバンスM、バクター100、クリアスーパ、トルマリンBC

C O 2 バレングラス・ビートル 40φ、CO₂ツイストカウンターで
1秒に5滴 (タワー使用)
A I R リリイパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤 プライティK、グリーンプライティ・ミネラル、
グリーンプライティ・アイアン、グリーンプライティ・ニトロ
換水 1週間に1度 1/3
水質 水温25℃ pH:6.2 TH:50mg/L

水草 ❶ 佗び草エキノMIX 90φ Wabi-Kusa Echinodorus MIX
❷ 佗び草有茎草MIX(赤系) 90φ Wabi-Kusa Stem MIX Red
❸ 佗び草有茎草MIX 90φ Wabi-Kusa Stem MIX
❹ 佗び草かれん 65φ Wabi-Kusa Karen
❺ クリプトコリネ・アクセルロディ (BIO) ※ Cryptocoryne axelrodi
❻ エキノドルス・テネルス (BIO) ※ Helanthium tenellum
❼ ショートヘアグラス (BIO) ※ Eleocharis parvula
❽ ミクロソラム・セミナロー Microsorium pteropus "Semi Narrow"
❾ ボルビティス・ヒュディオロティ Bolbitis heudelotii
❿ アヌビアス・ナナ Anubias barteri var. nana
⓫ ウィローモス (モスバッグ) ※ Taxiphyllum barbieri

魚種 レッドローズラスボラ Rasbora patrickyapi Tan
ラスボラ・カロクロマ Rasbora kalochroma
プンティウス・ペンタゾナ・ロンボケオラトゥス Puntius pentazona rhomboocellatus
ラスボラ・アギリス Rasbora agilis
レッドライントービードバルブ Puntius sp.cf.denisoni
サイアミーズ・フライングフォックス Crossococheilus oblongus
オトシンクルス Otocinclus sp.
ヤマトヌマエビ Caridina multidentata

©AQUA DESIGN AMANO
※はADA生体製品ラインナップです。

SUIKEI CREATOR INTERVIEW

荒木 大智 Daichi Araki

ネイチャーアクアリウム表現についての自問

—— 今回の作品のようにエキノドルス、クリプトコリネ、アヌビアスが一つの水景で使用されるレイアウト構成って今では珍しいと思うのですが、いかがでしょうか。

そうかもしれませんね。レイアウト構成自体は、かなりオーソドックスなネイチャーアクアリウムと言えると思いますし、クラシックな雰囲気というのはあえて意識しました。ただ、構図のインスピレーションは、私が南アフリカを訪れた際に見たドラケンスバーグ山脈の深い森林の風景が元になっています。その場所には川が流れていて、そこにあった巨石がとても印象的だったんです。当初は、その景色をそのまま再現しようとして、底床を化粧砂にして一つの石を目立たせ、背景を抽象的にする方向で考えていました。しかしながら、流木の仮組みや構想を練っているうちに考えが変わり、最終的にはオーソドックスなネイチャーアクアリウムの構成にしたほうが良いという判断となりました。このレイアウトでは、万天石を一つだけ使っていて、この石がレイアウト表現として核となるように配置していますが、水草の生長によって存在感が弱くなってくることは想定していました。ただそれはそれでいいんです。この石が発想の起点となっており、自分の中ではレイアウト全体の構成を支えているようなイメージです。

—— それはレイアウトの表現として、石を目立たせるのではなく、なじませるということでしょうか。

若干、ニュアンスは違いますが、レイアウトの発想から制作の流れの中で直感が働くことがあるんです。このときは、最初に見つけたコンセプトにとらわれ過ぎていて感じたんです。構図を仮組みしているときに、石を目立たせることばかりにとらわれ過ぎて、ネイチャーアクアリウムとしての表現としてどうなのかと何度も自問しました。この作品は昨年11月に開催した<IAPLC FES 2024>でお披露目する水景でもあったので、私の中ではネイチャーアクアリウムの王道的な水景も制作したいという思いも交錯しました。その結果として、最初のインスピレーションを生かしつつも、自分がつくりたいように進めてみようと思ったのです。南アフリカの現地で見た景色は、石がすごく印象的で面白かったのですが、そのまま再現するのではなく、抽象化していく表現パターンもあると思い最初のインスピレーションを踏襲しつつ、より自由に、自然につくりたいという気持ちが強くなり、石を目立たせる方向ではなく、なじませる方向に切り替えました。

構図



2024年9月12日撮影

—— そうだったんですね。構図素材には万天石とホーンウッドが使用されていますが、特別な選択理由などはありますか。

まず、南アフリカの現地で見た石が玄武岩だったので、それに近い質感の石を選ぶ必要がありました。ADAの石素材の中には玄武岩がないので、自分が感じた印象や雰囲気から万天石を選んでいました。流木は最初、石を目立たせるために細めのブランチウッドと組み合わせようと考えていました。しかし、先ほど話したように石を目立たせるのではなく調和させる方がいいと思ったことから、最終的に万天石とホーンウッドでレイアウトすることになりました。

—— 次に水草の話になりますが、今回はエキノドルスがポイント的に使われていますが、どのような意図があったのでしょうか。

実は背景はすべて「佗び草」で構成していて、エキノドルスは「佗び草 エキノMIX」から生

長した株なんです。今までは背景に「佗び草 エキノMIX」を使うこともほとんどなかったのですが、今回はその試みとして使用しました。背景の「佗び草 有茎草MIX」、「佗び草 有茎草MIX (赤系)」、「佗び草 かれん」の中にエキノドルスが入ることで、ちょっとしたアクセントが加わり、面白さが出たと思います。ただ背景の一番後方に入ると生長の速い有茎草に埋もれてしまうので、できるだけ中景側に配置して、トリミングもしやすくしました。エキノドルスの大きな葉は、水中でこそ映えるので狙い通りの生長をみせてくれました。個人的にもエキノドルスが好きなので、水景にエキノドルス加わることで自分らしさが出たかなと思っています。

—— なるほど。この作品ではクリプトコリネの存在感も強いですが、水草の種類が多く使われているように感じますが、どうでしょうか？

自分では水草の種類を多くしたつもりはありませんが、いくつかの種類の「佗び草」を使用したため、有茎草の種類が多くなった感じでしょうか。「佗び草」以外は、シダ2種類、アヌビアス1種、クリプトコリネ1種なので、使った水草としてはそこまで多くありません。クリプトコリネの印象が強いのは、ネイチャーアクアリウムならではの中景での使い方によるもので、この雰囲気はやはりいいですね。エキノドルスの話に戻ってしまいますが、「佗び草 エキノMIX」を使う場合、そのポテンシャルを理解して配置することが大事だと思います。今回の水景は構図が2対3で、左側にEch.ジョー



左:水景のアクセントに「佗び草エキノMIX」を配置した。
上:下草のショートヘアグラスは「アマゾン Ver.2 パウダータイプ」を敷くと植栽もしやすくなり生長もよい。

ヨーレッドスターを使い、右側にEch.レッドルピンを配置しています。2種類とも赤みの強い葉色特徴で、色彩的なポイントにもなるように選んでいます。またEch.レッドルピンは基本的に大きくなるため、重心側(右側)に配置しました。基本的には色の強弱とサイズ感を認識して配置を考えることが重要です。下草はショートヘアグラスを植栽しましたが、制作当時ちょうど「アクアソイル-アマゾン Ver.2 パウダータイプ」が新発売となり、ショートヘアグラスは土の中でランナーが伸びていくような生長の仕方をするので、パウダータイプとの相性がよく、その期待通りにきれいに生えてくれました。

—— 話は変わりますが、荒木さんって水景クリエイターになったころより制作スピードが速くなっていますよね。

そうですね。最近は非常に速くなったと感じています。経験が積み重なるにつれて、迷う時間が減り、スピード感が増しました。はじめのころは「これでいいのか?」と不安になることが多かったのですが、数をこなすことで自信がつき、納得のいくレイアウトが速く制作できるようになったと思います。あと、こういう典型的なネイチャーアクアリウムの構成の場合、水草自身が水景をつくり上げてくれるので、ある程度は水草の生長に任せることも大切だと実感したことが大きいと思います。だから、構図は時間を掛けて細部にこだわるよりも、すばやく組んで安定感のある構図にした方がいいんです。もちろ

ん、いくつかの要点はありますが、制作に速さという勢いは大切なんです。最近、ようやく天野 尚前社長がよく言っていた「一気呵成に組む」という意味がわかってきた、という気がしています。レイアウト制作が終わった後に「ここはもう少しこうすればよかったかな」と思うことも多々ありますが、以前よりは迷いがなくなり、それなりに納得できるものを、以前より速く制作できるようになったと感じています。

—— ネイチャーアクアリウムの主役となる魚についてですが、この作品ではどのようにして決めたのでしょうか。

この水景の場合は、クリプトコリネの印象からコイ科と決め、水槽がW1,200mmだったので中型サイズの魚を組み合わせました。そのため、水景の印象がアジアティックに傾きましたが、オーソドックスですがカージナルテトラとかレッドファントムなどのカラシンの仲間を混泳させても華やかさが加わって良かったでしょうね。



水景サイズがW1,200mmなのでバランスを考え、中型魚種を混泳させた。

MINI NATURE AQUARIUM #12

Mini NATURE AQUARIUM
MAINTENANCE GUIDE

DATA

撮影日 2024年12月19日
水槽 キューブガーデン W300×D300×H300 (mm)
照明 アクアスカイRGB ベーシック 300 (1日8時間30分点灯)
ろ過 スーパージェットフィルター ES-150 Ver.2 (ハイオリオ G)
素材 ヘーゼルグラベル S (GR-03)、ヘーゼルグラベル (GR-04)
底床 アタソイル-アマゾン Ver.2、パワーサンド・アドバンス、バクター100、クリアスーパードルマリンBC
CO₂ バレングラス TYPE-3で2秒に1滴
AIR リリィパイプ・スピンP-1によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤 プライティK、グリーンプライティ・ミネラル、グリーンプライティ・アイアン、グリーンプライティ・ニトロ
換水 1週間に1度 1/3
水質 水温25℃ pH: 6.8 TH: 50mg/L



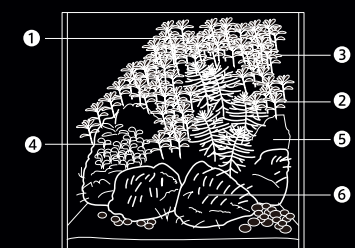
300mmキューブの世界は 新ベーシックとなるか

ネイチャーアクアリウムを楽しむ上で最初の選択となるのが水槽サイズだ。基本的に、水槽はサイズアップするにつれてパノラマ化していく。また、正面の縦横比の画面バランスとしては、黄金比 (1:1.618) に近いW600×H360 (mm) の水槽が、見た目にも美しくレイアウトしやすいバランスとされている。そうして考えてみると、3辺が同じサイズのキューブ水槽の存在は特異とも言えるが、案外300mmキューブ水槽の人気は高い。以前の感覚では標準的だったW600mm水槽でも大きいと思われるこのご時世という理由もあるだろう。一般的なW300×D180×H240 (mm) 水槽では、奥行きも高さもさほどなく、水量も少ないため



本体サイドのタッチセンサーで光量を3段階に調整できる。

維持管理が難しいと感じる面があるが、W300×D300×H300 (mm) となると同じW300mmの水槽でもまったく別の世界が広がっている。水草レイアウトを制作する水槽としてはやや高度な空間イメージ能力が必要だが、立方体(キューブ)というある種特別な空間で水景を表現することの楽しさを感じることができる。写真の作例などはその典型とも言え、有茎草の群生をバックにグッピーが舞う眺めは最高だ。そんなW300mmの水槽用に新たに開発されたLED照明器具が「アクアスカイRGBベーシック300」であり、照射範囲も広いので300mmのキューブ水槽には最適な設計となっている。スマート機能はないもののタッチセンサーで3段階の光量調整が可能であり、光環境としては十分な役割を果たしてくれる。



植物 ● 陀ひ草有茎草MIX ● 陀ひ草かれん ● エリオカリス・ビビバ ※ ● オーストラリアンヒドロコチレ ※
● ウィローモス ※ ● リシア ※
生体 グッピー
※はBIO みずくさの森のラインナップです。

CREATOR WORKS

Naru Uchida

PALUDARIUM W600 x D300 x H450 (mm)

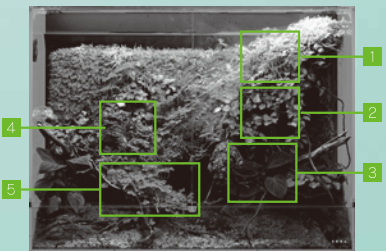


〔青の幻影〕

青く煌めくメタリックな葉が、光の加減で表情を変える——。このレイアウトの主役は、セラギネラ・ウンキナタ。バルダライトの光を浴びた葉は、角度によって色を変え、湿潤な環境の中でひととき存在感を放つ。ホマロメナ・フミリス“レッド”は、自然界の生棲環境にない、レイアウト内の薄暗いエリアに配置。葉の表面にある微細な毛がピロードのように美しく、その魅力的な本来の姿を見せてくれた。レイアウトの骨格となるのはどっしりと構えたコルクでありそこに絡ませたルートブランチが、まるで鳥のようにしなやかな動きを生み出し、力強さと繊細さを同時に演出している。湿度をまとう空間の中で、光と影、硬質と柔和が交錯する、まるで熱帯の森の一角を切り取ったかのような、幻想的なバルダリウムが完成した。

D A T A

撮影日 2024年11月13日
制 作 内田 成 (ADA SUIKEI CREATOR)
水 槽 システムバルダ 600
照 明 バルダライト 600 (1日8時間点灯)
底 床 ジャングルソイル、ジャングルベース、メイズグラベル (KUMU GR-05)
給 水 ミストフローボックスに2〜3週間に1度
排 水 高吸水スポンジで1週間に1度程度
湿度管理 ミストフローで毎時20分間
サーキュレーションファン 40で毎時5分間
時間管理 パワーコード S-70



MAIN PLANTS

- 1 セロジネ・フィンブリアータ
- 2 フィカス・ブミラ・バエリガータ
- 3 ホマロメナ・フミリスレッド
- 4 セラギネラ・エリスロプス
- 5 セラギネラ・ウンキナタ

New Style Indoor Green

Style
12

DOOAで提案するガラスケースで主に熱帯植物の育成を楽しむスタイルをさまざまな作例とともに紹介。
日々の生活の楽しみとして取り入れてみては。



DATA

CASE
GLASS POT SHIZUKU

PLANT
クリプタンサス・アルギロフィラス

LIGHTING
マグネットライト G スリム
6段階中5～6

SUBSTRATE
ジャングルソイル

MATERIAL
万天石 (販売終了)

葉の一面に細かなトリコームが密に付き美しいが、その様子や葉の形をきれいに維持するのは意外と難しい。水は好むものの水分が多いと葉が伸び気味になるので、引き締まった株にするにはギリギリまで水分を抑えることが必要。



DATA

CASE
GLASS POT MARU 130

PLANT
アマビアス・ナナブチ スノーフレーク(BIO)
フィカス・ブミラ クエルシフォリア

LIGHTING
マグネットライト G スリム
6段階中2～3

SUBSTRATE
ジャングルソイル

MATERIAL
KUMU リュウオウストーン

An.ナナブチ スノーフレークの白い斑模様を生かそうと、白い筋の入ったリュウオウストーンと組み合わせた作例。本種の斑は陸上栽培で弱光量下のほうが保ちやすいので、こうした楽しみ方がおすすめ。ここではフィカスの勢いをもう少し抑えたほうがよかった。



DATA

CASE
GLASS POT MARU 95

PLANT
プセファランドラ・ビプリス

LIGHTING
マグネットライト G スリム
6段階中3～4

SUBSTRATE
トロピカルリバーサンド

MATERIAL
KUMU ヤマヤストーン

強く波打った細葉など特徴的な葉姿のプセファランドラなどは、一株を石に活着させガラスポットMARU95でコレクションするのも面白い。水上栽培の場合は、藻類付着の心配はないが、高温時の蒸れやたまり水の放置には注意しよう。

KUMU MAKING GUIDE

#11

こだわりのレイアウトを楽しむための化粧素材「KUMU」。ここでは、それらを用いたレイアウトのつくり方や実用的なテクニックなどを、順を追ってわかりやすく解説します。

HOW TO MAKE

01



KUMU
ライケンストーン



トップケースに入るよう確認しながらライケンストーンを接着していく。

02



KUMU
メイズグラベル



ボトムケースにジャングルソイルとメイズグラベルを入れ、石を安定させる。

03



保湿のため石の隙間に水で濡らした水苔を仕込んだ。

04



植栽するスペースを意識しながら水苔の上にケト土を貼っていく。

05

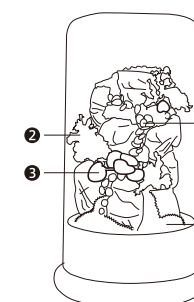


小分けにした植物と苔をケト土に植えていく。石の隙間を這うように植栽した。

06



上からケースを被せるタイプのガラスケース「CELL」は、構図となるパーツがケースに収まる必要がある。制作の際には、時折りトップケースを被せて収まりやバランスを確認しよう。縦長に積んだ構図と石の隙間から生える植物の表現で、立体感のあるレイアウトが完成した。



DATA

- セル エメラルド
- KUMU ライケンストーン
- KUMU メイズグラベル
- 植物
- ① マメツタ ② コンテリクマゴケ
- ③ ペトロコスメア・ブベッセンス
- ④ ヤマゴケ

IAPLC CREATOR'S FILE #22 Chuanwei Yu

世界トップレベルの水草レイアウトコンテストである「IAPLC」。このクリエイターズファイルでは、その上位入賞者にインタビューを行い、上達の秘訣や水草レイアウトに対するこだわりを紹介いたします。

チュワンウェイ ユイさんのSNSアカウント



自分の表現したい水景を 順位に関係なく作品として 納得のいくものをつくりたい

Q 出品作品の コンセプトをお聞かせください。

この作品のインスピレーションは、中国の広東・広西地方に見られるガジュマルの木から得ました。初めてガジュマルを見たとき、その旺盛な生命力に深く惹かれました。制作中は、試行錯誤を繰り返しながら練り上げ、限界に挑戦しました。最終的に、写実的な手法を用いて、ガジュマルが一本の木でありながらも森を形成するような力強さと、あふれる生命力を表現しました。

Q レイアウトを制作していく過程で、 苦労した点や工夫した点がありますか？

構想から完成まで約1年を要し、これは私の制作期間が最も長い作品となりました。最も時間と苦勞を費やしたのは、構図の制作です。写実的な表現を目指すため、全体のバランスを保ちながら細部まで徹底的に磨き

上げる必要がありました。ほぼ完成に近づいた段階で、幹の位置に若干のズレがあることに気がきました。大きな影響はないものの、気になってしまい、最終的にはすべて解体して作り直しました。この過程は、技術だけではなく精神力も試されるものでした。

Q 構図を組む際に 意識した点がありますか？

構図全体のバランスと美しさに特にこだわって制作しています。また、IAPLC 2023の優勝者であるゼイミン・ファンさんから多くのアドバイスをいただき、その中でも特に大きな学びとなったことは「視線の消失点」をつくることでした。始めはガジュマルの木自体を強調することを意識していましたが、視線の消失点を加えたことで、全体的に違和感が消え、構図にまとまりが増していったと思います。



インスピレーションの源となったガジュマルの木。



「プロツールバッグⅡ」を愛用中。



「壮大なガジュマル」 Aquarium Size W1,200×D600×H500(mm)

水草：ミクロソラム・トラIDENT／プレミアムモス／フレイムモス／アヌビアス・ナナ／プセファランドラ sp.／クリプトコリネ sp.／ミニヘアーグラス／ニューパールグラス／ニューラージパールグラス／ボルビティス・ヒュデロッティ／タイワンファン／ロタラ・ワリッキー／グリーンロタラ／

ホトニア・インフラータ／キクモ／カボンバ／ボゴステモン・ヘルフェリー／ウィローモス
魚種：カージナルテトラ／ネオンテトラ／レッドノーズテトラ／アベニー・パファー／シナヌマエビ

Q 水草の選定と植栽のポイントを 教えてください。

樹冠部分には、小型のボルビティスとサムライモスを多用し、ガジュマルの葉を表現しました。幹には、ジャワモス、プレミアムモス、プセファランドラなど配置し、着生植物を表現しています。前景はグロッソスティグマ、ショートヘアーグラスを植栽し、中景にはクリプトコリネとスタウロギネを植栽しています。背景には暗めのカボンバ、中央の視線が集まる部分には明るめのロタラとフサモを配置することで、視線が中央に集まるよう工夫しています。前・中・背景のバランスを取り、全体に奥行きと立体感を持たせています。

Q メンテナンスにおいて 意識していた箇所はありますか？

メンテナンスもレイアウトの一部だと考えて

います。換水やトリミングだけでなく、景観の調整も行いながら作業を進めます。常に改善と微調整を繰り返すことで、作品の完成度をさらに高めることもできます。そして最も大切なのは、こまめに手を入れることです！

Q IAPLC に初めて参加した きっかけはありますか？

IAPLCの存在は以前から知っており、その応募作品のレベルの高さに衝撃を受けました。水草レイアウトの仕事始めて1年が経ったところ、自身の技術を磨く目的で初めて挑戦し、2023年の大会にエントリーしました。

Q 2回目の応募で5位入賞となりましたが 制作に対する原動力は何でしょうか？

私の原動力は、納得のいく作品をつくりたいという思いです。順位に関係なく、自分の表現したい水景を作品として形にできれば、それ

が何よりも意味を持つと考えています。

Q IAPLCに応募するきっかけ、また、醍醐味 はどんなところにあると思いますか？

私の経験はまだ浅いため、正確な評価ではないかもしれませんが。私の印象では、水草レイアウトを楽しむ人が徐々に増えており、先輩方も積極的に知識を共有してくれます。全体の雰囲気もとても楽しいと感じています。

Q 最後にあなたにとって IAPLCとは何か教えてください。

IAPLCのようなプロフェッショナルなコンテストがあるおかげで、私は水草レイアウトの最高峰を目指すための明確な目標を持つことができています。本当に感謝しています！



構図制作時の様子。幹と枝のシルエットが奥行きと立体感を演出している。



納得がいくまで、細かい調整を何度も繰り返していく。

創造の人・天野 尚の軌跡。 文／阿部 正敏

超大判フィルムの世界

第8回 新潟県破間川溪谷 (2006年撮影) フジクローム・ベルビア (RVP) 11×14 in

※このページではカラーリバーサルフィルムの色をできるだけ忠実に再現し、
実物の約70%の大きさに縮小した画像を掲載しています。

天野 尚と愛用の大判カメラ

1 8×20 in 2 8×10 in
3 11×14 in
4 4×5 in 5 5×7 in



超大判フィルムで日本の自然を撮る

2003年、長年にわたるアマゾンでの撮影に区切りをつけた天野 尚は、翌年から本格的に超大判フィルムによる生態風景写真の撮影に着手する。天野がアマゾンでの撮影に使用した大判フィルムは5×7 in判が最大であり、超大判フィルムはもちろん8×10 in判も使用していない。8×20 in判や11×14 in判の超大判フィルムは使用するカメラや三脚などの撮影機材が非常に大きく重いため、海外、それもアマゾンのような熱帯雨林の過酷な環境で使用することは現実的ではなかった。現地での移動やフィルムの保管などを考えると8×10 in判でも難しく、5×7 in判が限界だったのだ。フィルムの保管について補足すると、高温によるフィルムの劣化と撮影後の潜像退行を軽減するため、フィルムは低温で保管する必要があった。幸い、アマゾンでの主な移動手段であった母船には発電機と冷蔵庫が備えられており、1カ月近い撮影期間にも対応できたが、冷蔵庫に入れる必要があるのはフィルムだけではない。このような現実との妥協点が5×7 in判だったと言える。しかし、日本国内であれば大きく重い撮影機材も自動車で運べるため、妥協することなく超大判フィルムで自然を撮影できる。また、アマゾンなどの熱帯と違って日本には明確な四季があり、季節ごとに変化に富んだ風景を撮影できることも魅力だった。こうして、天野は日本各地の自然を超大判フィルムで撮影するため、時間を見つけてはフィールドに出かけるようになったのである。

超大判カメラによる撮影は、さすがに天野といえども一人で行うことは難しかった。そのため、フィールドには毎回数人のスタッフが同行し、撮影のアシスタントを務めていた。その仕事の流れは、まず、天野が指示した場所に三脚を立てて超大判カメラをセットすることから始まる。次に、指示されたレンズをカメラに取り付けて絞りとシャッターを開き、天野にカブリとルーベを手渡す。天野が構図を決めてピントを合わせ終わったらシャッターを閉じ、シャッター速度と絞りを天野が露出計で決めた値に合わせ、シャッターをチャージする。この後、バキュームを差し込んだフィルムホルダーを天野に手渡す。天野はフィルムホルダーをカメラにセットすると引き蓋を抜き取り、レリーズを押し込んでシャッターを切り、引き蓋を裏返してフィルムホルダーに差し戻す。最後に天野がフィルムホルダーをカメラから取り出すので、スタッフがそれを受け取る。この一連の流れを淀みなく行うことが理想なのだが、経験の浅いスタッフは失敗も多く、手順を誤ってフィルムを感光させてダメにしてしまったり、カメラのピントグラスを割ったり、高価なレンズを地面に落として天野を落胆させることもあった。それでも天野はスタッフたちを根気強く指導し続け、彼らを一人前のアシスタントに育て上げていったのである。この生態風景写真もそのようにして撮影された一枚であり、当時の天野とスタッフたちの苦勞が報われた素晴らしい仕上がりとなっている。



天野 尚 愛用の超大判カメラ用レンズ

超大判カメラで使用できるレンズは、十分な大きさのイメージサークルを持つものに限られる。また、超大判フィルムの特性を最大限に引き出すために、解像度の高さも求められる。このような条件を満たすレンズは、大きく、重く、非常に高価である。ちなみに、レンズボウの白文字は、経験の浅いスタッフが見てもレンズの種類がわかるように、天野がペイントマーカーで書いたもの。ここにも、天野の豪放磊落な性格が見て取れる。

水草道!

静かに淡々と

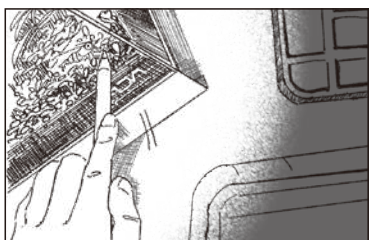


Illustration / Hayase Kato



Pinguicula laeana

一般的な魚類の鱗は、外部からのストレスに対するバリアとしての役割を果たしているようですが、一部のピンギキュラは、まるで魚の鱗のように冬季に葉の密度を高め、大切な生長点を守っています。冬芽を形成する種は低温に耐えられるものが多いのですが、冬芽を形成しない種は比較的暖かい地域に生息しているため、低温にさらさないほうが良いでしょう。置き場所の温度条件に合わせて植物を選ぶことで、バルダリウムの楽しみがさらに深まるはずです。



お家に魚や植物を迎えることは命を育むという特別な行為です。魚には水質管理などのメンテナンス、植物には水やりや環境調整が欠かせません。それぞれの成長を見守ることで家にながら自然とのつながりを感じることができ、生活を豊かにしてくれることでしょう。私たちはADA体験を提供するだけでなく、お客様と生き物を結ぶ新たな生活スタイルを提案したいと考えています。お客様が安心して魚や植物と暮らせるよう、選び方や育て方まですべてサポートさせていただきます。



REPORT

Photo & Text / Hayase Kato

PLANTS PORTRAIT

Photo & Text / Rynsuke Matsumoto

日々植物の育成に勤しむ松本 隆介の視点で、毎月ひとつ植物を紹介します。

STAFF CREDIT

Publisher
天野 のぶ

Art Direction
丸山 悟司

Design
市川 亮 / 高遠 将史
板橋 広夢

Editor
内田 成 / 松本 隆介 / 加藤 颯世

Supervisor
大岩 剛

Photo Supervisor
阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
<https://www.adana.co.jp>

Printed by
株式会社山田写真製版所



NEXT AQUA JOURNAL

MAY, 2025 vol.355
2025年4月10日(木) 発売予定



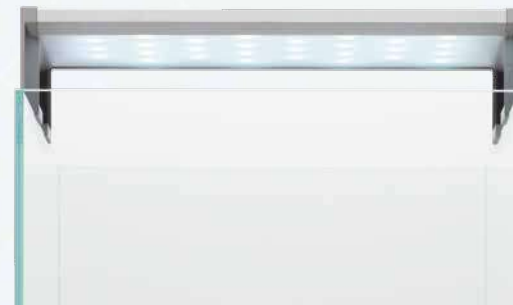
アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。
AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2025 Printed in JAPAN

INFORMATION

ADA NATURE AQUARIUM
NEW LIGHTING SYSTEM

AQUASKY RGB BASIC 300

アクアスカイ RGB
ベーシック 300



シンプルで使いやすい小型水槽用LED照明器具

独自の調光技術により、R (赤) G (緑) B (青) それぞれの出力を最適化することで、水草が健康に育つことはもちろん、水草本来の色である緑や赤が鮮やかに発色し、水草レイアウトをより美しく演出します。また、3段階で光量調整を行うことができるタッチ式スイッチを採用することにより、育成する水草の特性に合わせて光量調整が行えます。

〔対応水槽〕
キューブガーデン
W300×D180×H240 (mm)
ガラス厚5mm

キューブガーデン
W300×D300×H300 (mm)
ガラス厚5mm



アクアスカイ RGB ベーシック 300
価格：30,800円 (税込)
※全国のADA販売特約店でお求めください。



LIGHT STAND Z

NEW ライトスタンド Z

「マグネットライト G スリム」用のライトスタンドが新たに登場。高さを変更できるZ型のライト取付パーツにより、「CELL」をはじめとする各種ガラスポットに合わせて自在に高さ調節が行えます。シンプルで機能的なデザインが、新たなインドアグリーンのスタイルを提案します。

- スタンドの高さ：360mm 価格：¥22,000 (税込)
- 専用メタルベース直径：174mm ※「マグネットライト G スリム」は別売です。

DOOA CELL + MAGNET LIGHT G SLIM + LIGHT STAND Z

Plants: Begonia chlorosticta / Begonia darthvaderiana / Begonia dracopelta



Aqua Design
Amano
Laboratory

TOKYO
ADA LAB TOKYO



※リニューアルオープン完成イメージ

「ADA LAB TOKYO」が2025年4月中旬より
大丸東京店 10F にリニューアルオープン
オープン期日など詳細が決まりしだい、ADA公式HPやSNSなどでご案内を予定。

2022年4月、東京にADA LABとして初めて体験型店舗を開業。現在、日本国内では梅田と札幌を合わせ3店舗を展開しています。そして、いよいよ、<ADA LAB TOKYO> がリニューアルオープンいたします。これに伴い、展示水槽も大幅な拡張を予定しています。この春、新たなADA体験が皆様をお待ちしています。



**ADAネイチャーアクアリウム
W300mm水槽
最新フルシステム**

アクアスカイRGBベーシック300 **NEW**
キューブガーデン W300×D300×H300mm
キューブキャビネット・クリア W300×D300用
NAサーモメーター J-5WH
CO₂アドバンスシステム-フォレスト
スーパージェットフィルター ES-150 Ver.2
リリィパイプ・スピン P-1
リリィパイプ・ミニV-2
木製ベース W300×D300(mm)用

ADA NATURE AQUARIUM 300mm CUBE FULL SYSTEM